

◇『英学史研究』執筆要項◇

1. 原則としてワープロ原稿とする。
2. 用紙はA4判横書き、1枚（1項）40×30行とする。英文の場合は、80 letters×30行とする。
3. 枚数（項）は10枚（12,000字＝400字詰め原稿用紙換算で30枚）以内とする。
4. 英文レジュメ（200語程度。ネイティブによるチェック済みのもの）を必ず添えること。
5. 「はじめに／はしがき／おわりに」及び小見出し（的）なものは、

はじめに／はしがき／おわりに／1. 作者の誕生／2. 作家の変質のように、書体を太字にし、それぞれ左寄せにする。

また小見出しを付けないで、章立てのみの場合はローマ数字で「I、II、III、IV、…」を用い、数字は行の中央に置く。

6. 本文中の「注」番号は「……である<sup>1)</sup>。」のように上つきとする。論文末の「注」の形式は、太字書体で〔注〕として行の中央に置く。文献引用の注の書き方は以下を参照のこと。

（例）

- 1) 田部隆次『小泉八雲』（北星堂、1980年）、pp.10～15。
- 2) . . . . .

7. 本文中の英語の語句・文や欧米系統の記号等及び2ケタ以上の算用数字は、半角で入力する。英語の語句の前後は半角スペースをあける。

（例）19世紀前半の Orientalism は . . . . .

1960年代の風俗は . . . . .

1997年1月3日〔但し、年月日の数字はすべて半角〕

3編の論文は . . . また、第12章は . . .

8. 書名は『』、論文名は「」は使い、欧文書名はイタリック体にする（ワープロ機能上不可能な場合は赤の下線〔イタリック体の指示〕を引いておく）。

9. 長い文章を引用する場合は、前後を1行ずつあけて、1字分の字下げとする。

10. 外国人の人名、地名、書名、その他必要と思われる固有名詞などは、少なくとも初出の箇所で、「ハーン Lafcadio Hearn」のように原名を直後に入れる。

11. 難解な漢字表記（人名・地名・役職名等）にはルビを付ける。

（例）松平容保 かたもり ナボレオン ナボレオン 那破烈翁 なは 乍補 チャブウ 堪察加 かんさか 蕃書和解御用  
兵学頭 = 兵学寮長官  
兵学助 = 兵学寮次官

12. 参考文献の書き方は以下の（例）の要領で。

（例）中村光夫『明治文学史』、筑摩書房、1956年。